



モユク・カムイ'88

NO.

●モユク・カムイとはアイヌ語で「エゾタヌキ」のことです。 January 2016

ASAHIYAMA ZOO NEWS あさひやまどうぶつえんニュース

もくじ

ぼくは動物大使 その49 森のバッケンレコーダー ～アビシニアコロブス～	1.2
特集、雪あかりの動物園	3.4
獣音研究レポート 旭山動物園のあざらし ～あざらし館編・最終回～	5
動物園裏側紹介 名作・力作描いの 「児童画コンクール」編	6
主な出来事・アミキリン(♀)命名式報告 編集後記・飼育動物数	7



表紙の絵:旭山動物園賞(幼児の部)脇坂基広くん

アビシニアコロブス

Colobus guereza

サル(霊長)目 オナガザル科

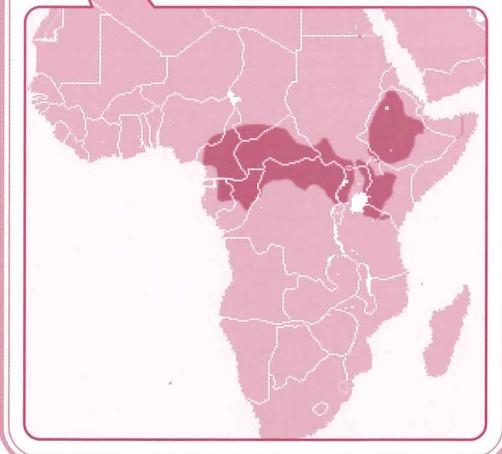
ケニヤ、ウガンダなど中央・東アフリカに生息する。常緑森林から3000m以上の高地などに暮らす。

1頭のオスと複数のメス、そしてその子供たちを含めた3-15頭の群れを形成する。オスが優位だが明確な順位はない。

寿命は、野生下で約20年である。飼育下では平均24年で、記録では最高35年生きた例がある。

天敵は、チンパンジーやヒョウなど。同じサルの仲間であるチンパンジーに襲われているシーンは、とても衝撃的だが、実は一番の天敵はヒトだとも言われている。

分布



ぼくは動物 大使 その49

森のバッケンレコーダー ~アビシニアコロブス~

体

頭胴長
尻尾の長さ
体重

45-72cm
52-100cm
5-14kg

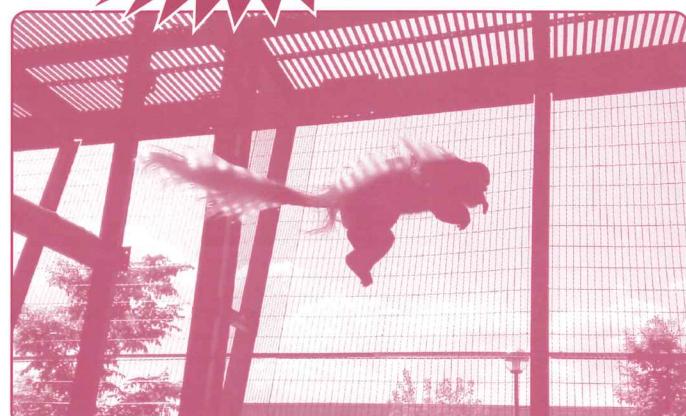
胃

胃はくびれて2つの部屋があり、その1つにバクテリアが共生している。その働きで木の葉から効率良く栄養を取れる。

ジャンプ力

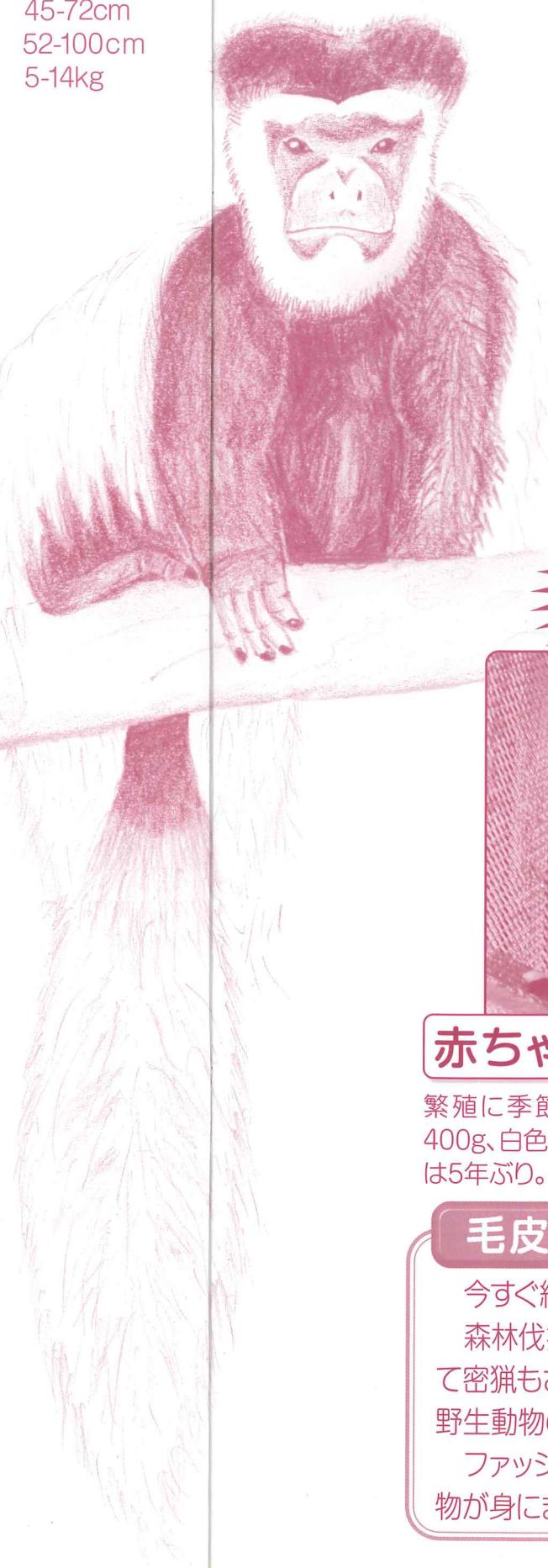
木々の間をジャンプして移動する。幅15mも跳んだ記録がある。跳ぶ姿はまるでスキージャンプのよう。

驚異の ジャンプ力!



マントとしっぽ

マントのような毛皮とフワフワのしっぽは、大ジャンプした際にその衝撃を和らげるパラシュートの役割をする。



食性

木の葉が主食だが果物も食べる。動物園では木の葉、レタス、キャベツなどを与えている。

手足

手には親指がなく4本指。足は5本指。大ジャンプするために発達した筋肉を持つ。

10月27日
赤ちゃん誕生!



赤ちゃん

繁殖に季節性はない。赤ちゃんは体重約400g、白色の体毛で生まれる。旭山での繁殖は5年ぶり。

毛皮はだれのため?

今すぐ絶滅する危険性はないとされていますが、コロブスもその数を減らしています。森林伐採による生息地の減少がもっとも大きな問題ですが、その美しい毛皮をねらって密猟もされています。ネットショッピングを調べるとアビシニアコロブスをはじめとした野生動物の毛皮のコートが売られています。

ファッションや文化を否定するつもりはありません。ですが、野生動物の毛皮は、野生動物が身にまとっているからこそ、美しいと思うのです。

旭山コロブス

ファミリー



お父さん サミュエル 16才 オス



お母さんと赤ちゃん アビー 9才 メス



サミュエルのお母さん カトリーナ 21才 メス

雪あかりの動物園

を迎える、冬の静かな雰囲気の中で夜の動物園を体験してもらおう。今回の特集は、「雪あかりの動物園」を紹介します。

人に聞く 雪あかり誕生秘話

をやろうと思いついたのは2012年の冬。とても活発に活動する動物たち。そんな姿を見てもかやれたらいいよねと、少し前から管理スタッフがあれよあれよと実現したのです。

広報担当 加藤さん▶



雪あかりに火が灯るまで



風船に水を入れます。破裂しないように注意!



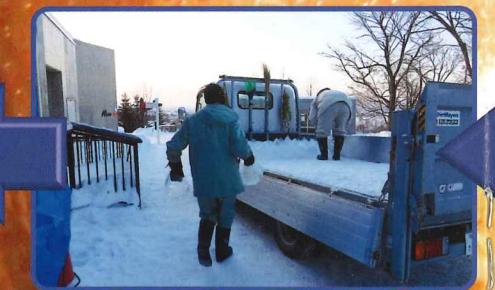
ビニール紐で吊します。



一晩で凍らせ、ドリルで穴を開けて中の水を出します。



当日 火を灯して…



前日にアイスキャンドルのスタンバイ。



雪あかり本番まで保管。全部で1000~2000個作成。

メッセージ

なると活発に行動をする もう理屈抜きに日本最北の動物園だからこそで

るさを演出しようと考えスタッフ総出でアイス

重要なお知らせ

開催日

平成28年2月6日(土)
～2月11日(木・祝)の6日間!

午前10時30分～午後8時30分
(最終入園は20:00まで)

今年は開園時間を
1時間延長します!!

注目ポイント!!

幻想的な雰囲気



約500個のアイスキャンドル

夜も活発な動物たち



昼とは違う動物たちの姿が!

ナイトガイド



冬の夜だから聞ける話が…

雪あかり制作体験



実施場所はペンギン館入口前

雪あかりのかみしばい



実施場所はあざらし館出口2F



飼育研究レポート

「旭山動物園のあざらし館」～あざらし館編・最終回～



2004年6月6日、あざらし館がオープンしました。北海道の小さな漁港をイメージした外観、プールには船を浮かべ、テトラポットもあります。海の雰囲気を出すためカモメとウミネコも共生展示しました。館内にある水槽にはオホーツク海に生息するミズダコとミズクラゲを展示したり、もう全てが「THE北海道」という施設になりました。

オープン当日、あざらし館は長蛇の列で、館内に入るまで1時間待ちの状態です。やっと入った館内ではマリンウェイを通るアザラシたちに「わあーすごーい」と大きな歓声があがりました。それを見ていた坂東園長は安堵と喜びの笑顔でした。

当初は、私と臨時職員2人の計3人体制での担当で、毎日新たな発見と沸きあがるアイデアを3人で形にしていく楽しさでとても充実した日々でした。中でも「あざらし18種等身大看板」は自信作です。きっかけは入園者数が年間300万人を越えた頃、ほっつきよくぐま館の行列があざらし館まで押し寄せていたのを見て「ここに手作り看板置こつか?」「お客様の暇つぶしにもなるしね」「そうだ!アザラシ18種を紹介しよう」「どうせなら等身大で作ろうか!」「いいねえ、この土手に18種を等身大で泳がせよう!」「イエ~イ!」時間と労力はかかりましたが完成した時の達成感は今も忘れていません。ノリと勢い(たまには必要でしょ!?)でできた自慢の作品です。

もうひとつ、どうしてもやりたかったことがあります。冬のオホーツク海を再現したい、流氷の隙間から顔を出し息継ぎするアザラシを見せたい。昔のアザラシ舎プールでは当たり前に見られた光景です。しかし難関がありました。あざらし館プールは循環濾過しており、水は館内機械室を通り、真冬でも冷えないのです。さらに昔のように-20度を下回る日が少なくなりました。放っておいても凍ることはありません。何とか浅瀬の部分だけでも…と思いプールの一部を仕切り、寒くなる日を見計らい人力で雪を入れて、どうにか人が乗っても大丈夫なくらいになりました。アザラシの頭が出るくらいの穴を開け、顔を出し息継ぎする姿を見て「これよ、これ!」と3人で興奮と感動を味わいました。



初代 等身大看板



やっと出来た小さな流氷広場

た。この取り組みは市民ZOOネットワークが主催するエンリッチメントアワード2009年度の「大賞」を頂きました。今ではこの「凍らせ大作戦」も改良され、雪はショベルカーで搬入して凍る範囲も広がり、さらに進化し続けています。

現在、私が初めて担当した頃のいわゆる初期メンは一頭もいなくなりました。でも、その子孫たちが来園者を楽しませています。担当者も今は四代目です。受け継がれていく命、受け継がれていくあざらし館。これからもたくさんの情報と感動を、楽しく魅力的に発信していくことでしょう。「あざらし館に幸あれ!」

(キリン担当・飼育担当主査 中田真一)

動物園裏側紹介

～名作・力作揃いの「児童画コンクール編～

今年で47回目を迎えた「旭山動物園児童画コンクール」。

応募総数はなんと1318点!旭山動物園の飼育動物数よりも多いんです!

今月号の表紙には旭山動物園賞(幼児の部)の脇坂基広くんの作品を使わせていただきましたが、これ以外にも名作・力作揃い。

今回はこの児童画コンクールの審査から表彰式までの裏側と見事、旭山動物園賞を受賞した3作品を紹介したいと思います!



表彰式当日には、たくさんの方に集まっていただきました!



旭山動物園賞を受賞した左から高山くん、石脇くん、脇坂くん。



審査会では応募作品を全てずらっと並べ、少しづつ絞り込んでいきます。
丸一日がかりで受賞作品を決めていきます。
最後はやっぱり多数決♪



旭山動物園賞(低学年の部)
石脇世梨くんの作品(右)と、
旭山動物園賞(高学年の部)
高山駿太くんの作品(左)

本誌「モユタガル」の表紙の絵を描き、児童画コンクールの審査員を務める旭山のミシマヒロと中田主査による総評!



ここ数年、審査に参加しています。画用紙からはみ出るほどの大胆な作品や、高額の値がつきそうな繊細な秀作、「子供達からはこう見えてるんだあ、とてもまねできない!」と毎回発見と感動の連続です。

今年も“想い”が詰まったたくさんのご応募ありがとうございました。

来年も動物への愛情と力のこもった作品のご応募をお待ちしております!

主なできごと《2015年》

- | | | | |
|--------|--|--------|----------------------------------|
| 10月5日 | イボイノシシ「ドゥニア(♂)」
かば館で展示開始 | 29日 | アミメキリン(♀)と「ゲンキ」同居 |
| | レッサーパンダ「縞縞(ガオガオ)」展示開始 | 30日 | アビシニアコロブス5年ぶりに出産 |
| 8日 | アミメキリン(♀)アメリカから来園 | 11月 1日 | イボイノシシ(♀)アメリカから来園 |
| 17日 | アミメキリン(♀)の愛称募集開始
(11月3日まで)
「秋の実ストラップをつくろう」開催 | 3日 | 夏期開園終了
わくわくゲーム大会開催 |
| 20日 | 飼育勉強会 | 6日 | ホッキョクグマ「ルル」と「サツキ」
出産準備のため展示中止 |
| 21~23日 | 第63回動物園技術者研究会
(千葉市動物公園) | 11日 | 冬期開園 |
| ●演 | 題:環境教育実践後の「児童の意識と行動」の調査 | 22日 | アミメキリン(♀)命名式
「結(ゆい)」と命名 |
| ●発 | 表:佐賀真一 | 23日 | 飼育勉強会 |
| ●演 | 題:天売島の野良猫の飼育と展示について | 29日 | クリスマスツリーを飾る会開催 |
| ●発 | 表:中村亮平 | | |

アミメキリン(♀) 命名式 報告

編集後記

11月22日(日)にアミメキリンの命名式を行いました。

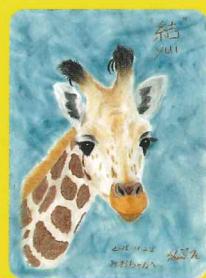
10月17日から11月3日まで愛称を募集し、2151通の応募がありました。園長とキリン飼育担当者で愛称と命名理由から、厳正なる選考を行い愛称を決定しました。

愛称:「結(ゆい)」

理由:「みんなを結ぶ楽しい動物園になって欲しい」

命名者になったのは、旭川市在住の斎藤 澄(みお)さん。命名式では、斎藤さんから園長に命名プレートが手渡され、動物園からはキリン飼育担当者自筆の「結」の絵などの記念品、NPO法人旭山動物園くらぶからキリンのぬいぐるみなど記念品が斎藤さんに贈呈されました。すてきな愛称を考えいただき本当にありがとうございました。

また、応募をしていただいたたくさんの方々にもこの場を借りてお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。



◆飼育担当者
自筆画
「結(ゆい)」

◆命名者の斎藤さんご一家と記念撮影

冬期開園が始まり、冬の到来を待っていた矢先、例年より早すぎるくらいの「ドカ雪」が11月下旬に降ってきて、園内は一気に雪景色になりました。ここ数年は、雪が降り積もるのが遅くなっていたこともあり、それに慣れていた私たちもちょっと焦ってしまいました。

そんな中、動物たちは?と言うと、雪が降り積もる寒い中でも、元気に生き生きとしています。

2月には「雪あかりの動物園」が開催されます。旭川では一番寒い時期です。寒い冬の夜の動物たちの姿は本当にすばらしいものです。ぜひお越しください。

(佐賀)

モユク・カムイ No.88 平成28年1月15日

- 発行所/旭川市旭山動物園 〒078-8205 旭川市東旭川町倉沼 ☎0166-36-1104
●発行/坂東 元 ●表紙絵:旭山動物園賞 脇坂基広くん
●編集/丸 一喜・高橋 伸広・大内 章広・鈴木 悠太・奥山 英登
●印刷/中村 亮平・佐賀 真一
●印刷/(株)須田製版
〒070-8045 旭川市忠和5条8丁目3-1 ☎0166-62-2266

飼育動物数

2015年12月末現在

- | | |
|------|-----------|
| ●哺乳類 | 46種・267点 |
| ●鳥類 | 63種・351点 |
| ●は虫類 | 5種・ 17点 |
| ●合計 | 114種・635点 |